

子育ての中の

基礎体力づくり

16ミリ/カラー/22分/130,000円

教育映画祭優秀作品賞

文部省特選

協力 日本映画教育協会

製作 桜映画社

■すいせんの言葉

保健体育審議会委員 小野清子

「美しいもの。この世には美しいものが沢山あります。子供達が目を輝かせ、一点を見つめている姿などは神聖な感じさえ抱かせますが、元気に運動している時の姿こそ、何にも優る美しいものと私はいつも思うのです。こうした姿を目にした時、見ている者の心の中が洗われ、何か新しい力が沸き上ってくる思いがするものです。幼児期の子供達は、こうした姿を通して成長していくものですが、周囲の環境が、思うように子供達を受け入れてくれません。」

お父さん、お母さんの愛情ある心使いで、この映画でも見られるように、子供達は、逞ましく変化し、だれよりも子供自身が喜びを感じるものであることを忘れてはなりません。でき、不できにこだわらず、何度もくり返すことに楽しさを見出す、子育てとは、焦らず遠くを見ながら、一日を大切にしていって、そういう姿勢ですすめていきたいものだと思います。

最近の子供たちをとりまく生活環境の急激な変化は、子供たちの基礎体力にも大きな影響をおよぼし、体格は大きくなったのに、基礎体力の劣った子供が多くなっている。

この映画では、成長期の子供のうち、特に基礎体力が急速に発達するといわれている3才～4才児を中心に、3人の幼児の成長を追いながら、子育ての基本を解説していく。

お母さんやお父さんのちょっとした努力、地域の人たちのちょっとした創意で、子供たちは生き生きと体と心の豊かな少年期へと成長していくことを、子育てで苦労されている多くの母親たちに、少しでも理解していただければ幸いである。

国立公衆衛生院母性小児
衛生学部学校衛生室長 高石昌弘

「子育てのあり方」とか「子育ての理念」とか、育児の考え方についての議論が盛んである。昔とちがいが、子供の数が少なくなってくると、子供に対する期待が過大になるからであろう。また、めまぐるしく変る社会環境のなかで、良い子育ての習慣や望ましい遊びの環境が急速に失われている現実があるからでもある。

このような背景のもとに、文部省は「子育ての中の基礎体力づくり」という冊子を刊行し好評を得ている。この冊子の内容にもとづいて作られた映画が作成された。視聴覚に訴え、分りやすく幼児の基礎体力づくりが解説されている。「健康づくり」、「体力づくり」の重要性が華やかに議論されている今日、幼児を対象とした体力づくりの基本的な考え方を知るうえに好適な映画である。明るく豊かな社会を目指して、次代になう幼児の健康と体力を考えるため、できるだけ大勢の人々にみて貰いたいと願って止まない。

製作

株式会社

桜映画社

東京都新宿区西新宿1-22-1
スタンダードビル ☎03(342)5768

配給

No. 179

S. 55

■あらすじ

幼児は3才から4才になると運動能力が大きく発達してくるが、個人差が現われてきて誰も彼も一様ではない。

4才のマーちゃんは、まだボールがうまく受けとめられない。お母さんの話だと、日頃ボール遊びの経験が少なかったようだ。

大ちゃんはみんなの仲間になかなか入れない。スポーツクラブやお絵かき教室に通っている大ちゃんなんだが、お母さんの指示にしばられてみんなの中にとけこめないでいるようなのである。

地域で母と子の遊びの工夫をしている自主的な集りがある。そのグループで学んできたリカちゃんとお母さん、家でも一緒に楽しく運動している。

昼間いきり体を動かすと、食欲もすすみ、夜もぐっすりよく眠れる。

マーちゃんのお母さんは、マーちゃんと一緒にボール遊びを始めた。

大ちゃんのお母さんは、お父さんにも協力してもらって、大ちゃんを子供たちの世界におくり出す努力をはじめた。そして今迄仲間と遊べなかった大ちゃんが、いつの間にかみんなの中にとけこんでいった。

子供たちはこうして今迄知りえなかった新しいことを学び、自分たち子供の世界をつくっていく。

大ちゃんのお母さんの呼びかけで、友だちやそのお母さんたちが、自然の中でお弁当をひろげ、思う存分に子供たちを遊ばせている。子供たちはそうした中で、のびのびとたくましく育っていく。



■利用の方法

○小集団学習の場合～家庭教育学級、婦人学級、母親教室、幼児保育自主学習グループ等における学習計画「幼児の基礎体力づくりの基本」「わが子の基礎体力づくりをどうすすめるか」等の教材。

○集会学習の場合～幼稚園・保育園PTAの母親懇談会、婦人団体の集会、地域幼児の母親懇談会、町内会婦人部集会などに上映して、「幼児の基礎体力づくりのポイントとその実践」「わが子をのびのびとたくましく育てるには」等の課題で話し合う。又、婦人団体や学習グループ、地域の幼児の母親グループ等の代表、地域社会教育指導員、同体育指導員、地域幼児保育施設代表などで、地域における幼児の基礎体力づくりの振興」についての研修会を開き、この映画の活用を通して、〈地域振興計画〉を策定し、これの実践をはかる。その際『子育ての中の基礎体力づくり』（文部省著作・第一法規出版360円）が大いに参考になる。

■スタッフ

脚本	福岡 順子	製作	村山 和雄
演出	山下 秀雄	撮影	北川 英雄
照明	谷川 庄三	選曲	西山 登
解説	幸田 弘子		

■話し合いのポイント

(1) 上手にとべる子、とべない子と子どもによって個人差がでている事実をみてどう思うか。

(2) 運動する能力や体力づくりが、仲間遊びの中で大きく発達するというのはどうしてだろうか。

(3) お坐りができ、這い這いができ、立ち上って、つたわり歩きをして、一人歩きが始まるこの過程を通して気づくことは何だろうか。（たくましい生命力、これを阻害してはいけない）

(4) 1才～2才のボール遊びで気づくことは何だろうか。（機会を捉えては経験させることが大切）

(5) 運動能力は3才～4才にかけて伸びるといわれるが、個人差があるのに気づくだろうか。（マーちゃん和其他の子との違いからも）この個人差に対して母親の心構え、態度はどうあるべきだろうか。

(6) マーちゃんはボールを受けとれない。かわがりなもので…。どうしたら受取れるようになるか。どうしてそうするのがよいか。ここで大事なことは何だろうか。

(7) 大ちゃんはお母さんの指示でいろいろな活動をやっているが、みんなの中にとけこんでいけないようだがどうしてだろうか。

(8) 「たけの子グループ」の自主的なサークル活動は、幼児の運動能力や体力づくりにどんな意義をもつか。①幼児に興味をもたせる。②できるだけ経験をつませる。③体を動かす喜びをおぼえさせるの3箇条に関連して考える。特にこの①興味②経験③喜びはポイントとして心に止めておく。(9) 幼児の運動能力や体力がなぜ遊びの中でつくられるのだろうか。

(10) 幼児の遊びにとって、興味・経験・喜びの3要素がなぜ大切ということになるのだろうか？

(11) 家の中での運動遊びにはどんなものがあるだろうか。その実践上の注意は何か。

(12) 3才頃から友だち遊びの楽しさを味わわせることが大切とはなぜか。

(13) 食欲・偏食・睡眠と運動遊びとの間にどんな関係があるか。そんな時母親としてどんな点に注意すべきか。

(14) マーちゃんの母親が、ボールに慣れさせるために、励ましたり褒めたりしているが、これはどんな意味があるのだろうか。

(15) 〈教育〉は子供の眠っている（隠れている）能力を引き出すことだというが、母親の立場としてはどんな役割をはたすべきか。

(16) 大ちゃんの母親や父親が、大ちゃんを外につれだし、仲間遊びの楽しさを味わわせようと努力しているが、この情景をどう思うか。

(17) 今迄仲間の沢山いるクラブなどに行っても、仲間に入らなかった大ちゃんが、自然に仲間に入り込んでいったのはどうしてか。

(18) 子供たちは仲間遊びを通して、何を学んでいくのか。

(19) お母さんがついて行った時の大ちゃんと、仲間遊びをしている大ちゃんとう違うだろうか。

(20) 大ちゃんの母親が大ちゃんの友だちのお母さんたちに呼びかけての野外遊び、子供たちの気分はどうだろうか。

(21) 3人の幼児の母親たちは、夫々どんな反省に立って、子供たちを仲間遊びの中にとけ込ませたか。

(22) 基礎体力づくりの基本とは何か。（人間として生き続けるために必要な体力、然も子供の時に培っておかねばならぬ体力）尚、子どもはすばらしい生命力をもっているが、親としてはどうこの子を伸ばしていいたらよいか（意欲を持って育とうとする子に、これを援助する親でありたい）

(23) さて、わが子についての反省はどうか。これからどういう考えで、どうすすめるか。